

(結果) FP療法の奏効率は50.0%であった。切除率ではFP群が5/12 (41.7%), 対照群では13/21 (61.8%)と対照群で切除率が高かったが, C1以上切除率はFP群で3/5 (60%), 対照群では4/13 (30.7%)でFP療法でC1以上切除率の向上を認めた。

(結語) A3食道癌に対する low dose FP療法は副作用も軽度で高い奏効率が得られたが, 予後の改善には至らずさらなる工夫が必要と考えられた。

#### II-50. T4食道癌に対する FAP 療法の効果

神奈川県立がんセンター外科第1科

青山 法夫, 南出 純二, 米山 克也  
神矢 丈児, 星野 澄人, 小泉 博義

1996年8月~1998年12月の期間に, T4M0食道扁平上皮癌17例に対して, 5-FU 600mg/m<sup>2</sup>×day 1-7, ADM 30mg/m<sup>2</sup>×day 1, CDDP 60mg/m<sup>2</sup>×day 1. 投与し3週間休薬するFAP療法を原則として2コース行った。結果は, PD1, NC4, PR11, CR1で, 奏効率は70.6%であった。切除術を12例(70.6%)に施行し, 主病巣の組織学的効果はGrade0:0(0%), Grade1a:4(33%), Grade1b:1(8%), Grade2:6(50%), Grade3:1(8%)であった。切除例の2年生存率(Kaplan-Meier法)は65%, 非切除5例(3例は同時化学放射線療法追加)は20%であった。

#### II-51. A3 (T4) 胸部食道癌に対する CDDP/5FU 併用療法の治療成績

富山医科薬科大学第2外科

清水 哲朗, 斉藤 文良, 井原 祐治  
榑原 年宏, 田内 克典, 斉藤 光和  
坂本 隆, 塚田 一博

1991年1月から入院時A3と診断された21例にCDDP/5FU (FP)療法を施行した。投与法は, day1にCDDP 75~100mg または low dose 連日投与と5FU 250~500mg を5日/週投与する方法で行った。照射は18例に, 温熱療法は13例に腔内加温が行われた。治療合併症は5例の白血球減少症などが認められた。局所奏効率は52.4%で, 結果的に9例に切除が行われた。切除例のうち根治度C症例の予後は不良であったが, B以上の切除が行われた6例の5年生存率は66.7%であった。A3胸部食道癌に対する術前FP療法+手術は, 根治度B以上により長期生存を得る可能性があるが, 切除の適応は厳格になさねばならない。

#### II-52. T4食道癌の治療と予後

名古屋大学第2外科

関口 宏之, 秋山 清次, 藤原 道隆

小田 和重, 松井 隆則, 斉藤 理  
陳 鶴祥, 須田 賢, 伊藤 誠二  
金光 幸秀, 角尾 英男, 秀村 和彦  
笠井 保志, 伊藤 勝基, 中尾 昭公

我々は23例のT4食道癌に5-FU+low-dose CDDPを施行。Ce 5例, Ut 4例, Mt 10例, Lt, Ae 4例。浸潤臓器は大動脈14例, 気管10例, 甲状腺3例, 肝臓, 胸椎, 頸動脈が1例ずつ。Ce 5症例はT4のままであったが, 3例は喉頭全摘にて腫瘍切除が可能。Ut~Ae 18症例で大動脈浸潤14例, 気管浸潤6例のうち腫瘍切除は6例, 3例に可能。肝臓, 胸椎の浸潤例は切除不能。T4食道癌に対する化療にて約半数が切除可能となり, 予後は良好であるが, 非切除例は化療の効果に関係なく予後不良である。

#### II-53. “術前 FAP 療法” を併用した A3進行食道癌 に対する治療成績

大阪府立成人病センター外科

安田 卓司, 甲 利幸, 山田 晃正  
村田 幸平, 大東 弘明, 平塚 正弘  
亀山 雅男, 佐々木 洋, 石川 治  
古河 洋, 今岡 真義

気管(支)及び大動脈浸潤を伴うT4食道癌32例(B群)を対象に術前化学療法(FAP)を行い, 術前無治療のT4:21例(A群)と比較検討した。【FAP療法】CDDP 70mg/m<sup>2</sup>とADR 30mg/m<sup>2</sup>を第1日に点滴静注。5-FUは1,000mg/日を7日間投与。1クール/4週間で2クール施行。【結果】B群:FAP療法の奏効率は66%(PR:21例)。13例の合併切除を含む28例(87.5%)が根治切除。1年/2年/3年生存率は, 71%/48%/33%で, A群の29%/19%/10%に比し, 飛躍的に向上した(p=0.0002)。【結語】T4進行食道癌といえども, 術前化学療法を併用した積極的な外科切除により, 遠隔成績の向上が得られると考えられた。

#### II-54. 食道癌 T4症例に対する放射線治療

国立札幌病院放射線科

鬼丸 力也, 西尾 正道, 明神美弥子  
川島 和之, 鎌田 洋, 森 孝之

【対象, 方法】対象は40例。平均腫瘍長径7.9cm。浸潤部位と症例数は大動脈12例, 気管気管支18例, 心臓14例(重複あり)。照射は, 腔内照射併用(23例)では外照射55Gy以上の後, 3.5~12.5Gyの腔内照射を追加, 外照射単独(17例)は, 60~74.8Gyの外照射を施行。化学療法は20例に施行。手術は4例に施行。

【結果】5年生存率12.8%。手術施行例を除くと, 化学